

近畿農政局長賞

とどろみ
止々呂美ゆず生産者協議会（大阪府箕面市）



〈ゆずサポーター〉



〈PR キャラクター〉



〈収穫現場の見学会〉

【概要】

（１）むらづくりの動機・背景

箕面市では、農業者の高齢化や後継者の農業離れ・域外流出が進み、平成12年時に560戸あった農家も平成27年には473戸まで減り、その後も減少を続けている。

後継者の農業離れが進む中、地域資源としての田畑や果樹園をどのように継承していくかが課題となっている。

平成21年に箕面市が従来からの観光資源の「もみじ」に加えて、箕面産の「ゆず」を活かした地域活性化と観光や商工の活性化に取り組んでいく推進母体として、商工会議所、JA大阪北部等と連携して「ゆずともみじの里・みのおプロジェクト会議」を立ち上げたことから、プロジェクトへの参画を通じて地元農産物の消費拡大を推進し、地域産業の振興を図ることを目的として「ゆず」をむらづくりの原動力としていくこととした。

（２）むらづくりの内容

高齢農家にとって、鋭い棘を避けながら、高所で収穫作業を行うことは困難なため、平成22年から箕面市がゆずの収穫と剪定を支援する「ゆず収穫サポーター隊」の募集を開始、協議会では、ゆずが好きな人が安全かつ安心して農作業を行い、当地区のゆずのファンになってくれるよう、技術指導等を行い、商品化に必要な原料ゆずの確保に努めるとともに、商工会議所メンバーによる商品化を支援するため、果汁絞りや皮のスライス、ペーストづくりなどの1次加工を担っている。

現在ではポン酢やドレッシングをはじめ、ゆずみそ汁やカステラ、シフォンケーキ、わらび餅など62店舗で商品化されている。

また、次世代への継承の取り組みとして、地元の小中一貫校の子どもたちに対し、収穫の現場見学やゆずに関する出前授業を行い、止々呂美地区の産業や文化、歴史を伝えるとともに、実際に体験し、学べる機会を提供するなど、生産者協議会の取り組みは生産性の向上や農業の担い手の育成といった農業面の課題への対応に加え、歴史の継承や都市部との交流、女性活躍の推進、高齢者の生きがいの確保等の課題に積極的に取り組むなど、地域住民が主体となった活動を行なっている。